

平成 1 2 年度国語部会

研究主題

改訂学習指導要領の趣旨に沿った国語科学習の在り方

1 国語科の改訂の基本方針

「小学校，中学校及び高等学校を通じて，言語の教育としての立場を重視し，国語に対する関心を高め国語を尊重する態度を育てるとともに，豊かな言語感覚を養い，互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力を育成することに重点を置いて内容の改善を図る。特に，文学的な文章の詳細な読解に偏りがちであった指導の在り方を改め，自分の考えをもち，論理的に意見を述べる能力，目的や場面などに応じて適切に表現する能力，目的に応じて的確に読みとる能力や読書に親しむ態度を育てることを重視する。」

「日常生活に必要な話す・聞く，書く，読むなどの基本的な内容を繰り返し学習し確実に言語能力を育成することを重視して，次のような改善を図る。」

- (1) 目標及び領域構成
- (2) 言語活動例
- (3) 2 学年のまとめ
- (4) 指導事項の重点化
- (5) 漢字の読み書き

2 夏季研修会で明らかにしたいこと

移行期間中に，改訂学習指導要領における国語科学習の具体的な在り方を実践することが求められている。

そのために，

- (1) 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域の指導法を取り上げた。
- (2) 次の単元を中心に，1 学期の具体的な実践を語り合う中で，指導法を考えようとした。

話すこと・聞くこと	---	2 年 5 月	「たからものをしょうかいしよう」
書くこと	-----	4 年 5 月	「写真や絵を見て伝えよう」
読むこと	-----	5 年 6 月	「文章の仕組みを考えながら『動物の体』」

その中で，

- (1) 基礎・基本の徹底，他領域との関連指導，選択学習の在り方，言語活動の活発化等を解明したい。
- (2) 子どもが，よりよいことばの学び手となるために，教師がどこで，どのような指導をすればよいか等を解明したい。